

記入例

様式第4号(第4条関係)

証紙は申請時に係員の確認を受けてから貼り付けて下さい

宮城県収入証  
紙はり付け欄

登 録 申 請 書

平成 年 月 日

宮城県知事 殿

申請者 住 所 仙台市青葉区本町三丁目8番1号

氏名又は名称 株式会社宮城県庁

代表取締役 宮城太郎 ㊟

(代表者住所 仙台市青葉区中央1-1)

電話番号〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇 (法人電話番号)

建築物における衛生的環境の確保に関する法律第12条の2第1項の登録を受けたいので、  
関係書類を添えて申請します。

1 登録区分 建築物飲料水貯水槽清掃業

新規・更新 (登録番号：宮城県〇〇貯第〇号，現行登録の有効期限〇〇年〇〇月〇〇日)

新規申請の場合は「新規」の方にマルをつけて下さい。次  
ページ以降の別紙様式は新規・更新にかかわらず全て添付  
して下さい。

2 営業所の所在地及び名称 仙台市宮城野区本町十丁目1番1号

株式会社宮城県庁 仙台営業所

電話番号 〇〇〇-〇〇〇-〇〇〇〇

3 営業所の責任者の氏名 仙台営業所長 宮城 花子

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A列4番とすること。

別紙様式第1号

機械器具の概要を記載した書面

## 設 備 ・ 機 器 名 簿

平成〇〇年〇〇月〇〇日現在

名 称	型 式	数 量	購入年月
(1) 揚水ポンプ	宮城〇〇(株)製 YP-100型	2	平成〇年〇月〇日
(2) 高圧洗浄機	宮城〇〇(株)製 KS-3型	2	平成〇年〇月〇日
(3) 残水処理機	宮城〇〇(株)製 Z-1101型	2	平成〇年〇月〇日
(4) 換気ファン	宮城〇〇(株)製 KF-79型	2	平成〇年〇月〇日
(5) 防水型照明器具	宮城〇〇(株)製 BS-80型	6	平成〇年〇月〇日
(6) 色度計、濁度計	宮城〇〇(株)製 S-100型	2	平成〇年〇月〇日
(7) 残留塩素測定器具	宮城〇〇(株)製 ZE-100型	4	平成〇年〇月〇日
<p>機械器具や塩素剤を保管するための専用保管庫の概要を記載した図面を添付して下さい</p> <p>なお、保管庫の構造は以下の条件を満たすものとしてください。</p> <ol style="list-style-type: none"><li>1) 機械器具に雨水等がかかるおそれのない構造であること。</li><li>2) 機械器具を置く棚、箱などは水切り、水抜きが簡単にでき、水が溜まらない構造であること。</li><li>3) 機械器具を保管するのに適切な規模であること。</li><li>4) 他の用途に用いる機械器具類も併せて保管している倉庫の一部が保管庫となっているような場合には、貯水槽清掃作業に用いる機械器具を保管する場所が独立して設けられており、他のものを誤用するおそれがないようになっていること。</li><li>5) 保管庫は施錠でき、みだりに機械器具を持ち出せないようになっていること。</li></ol>			

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

別紙様式第2号

監督者等の氏名を記載した書面

監督者等名簿

監督者氏名にはふりがなをふってください。

平成〇〇年〇〇月〇〇日現在

監督者等の名称	氏名	業務範囲	経験年数	資格の種別	資格取得年月日
(注1) 貯水槽清掃作業監督者	みやぎ たろう 宮城 太郎	(注2) 第1班	10年	(注3) 貯水槽清掃作業監督者講習 会修了 第〇〇〇号	平成〇年〇月〇日
〃	みやぎ はなこ 宮城 花子	第2班	7年	貯水槽清掃作業監督者講習 会修了 第〇〇〇号	平成〇年〇月〇日

講習会の修了証又は建築物環境衛生管理技術者免状のコピーを添付して下さい。

監督者の資格の期限が切れている場合は登録できません。また、建築物環境衛生管理技術者の資格で初回登録した場合は、当該業種の監督者講習を修了しないと再登録はできません。

また、監督者は次の者と兼務している場合には登録できません。

- ① 特定建築物の衛生管理技術者
- ② 他の登録業の監督者等

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

(注1) 清掃業の場合は清掃作業監督者、空気環境測定業の場合は空気環境測定実施者、空気調用ダクト清掃業の場合はダクト清掃作業監督者、飲料水水質検査業の場合は水質検査実施者、貯水槽清掃業の場合は飲料水貯水槽清掃作業監督者、排水管清掃業の場合は排水管清掃作業監督者、建築物ねずみ昆虫等防除業の場合は防除作業監督者、建築物環境衛生総合管理業の場合は総括管理者、清掃作業監督者、空調給排水管理監督者及び空気環境測定実施者について記入する。

(注2) 監督者等が複数いる場合は、それぞれの業務分担を記入する。

(注3) 〇〇講習会修了、建築物環境衛生管理技術者免状保有者等と記入する。

別紙様式第3号

従事者研修の実施状況を記載した書面

新規登録；過去1年間分の実績及び今後1年間の計画を記入。  
更新；過去6年間分の実績及び今後1年間の計画を記入。

## 研修実施状況（計画）

（自平成〇〇年〇〇月〇〇日 至平成〇〇年〇〇月〇〇日）

平成〇〇年〇〇月〇〇日現在

研修の期日	研修の内容	指導員の氏名及び資格	対象従事者数	参加従事者数
平成〇年〇月〇日	1 貯水槽の清掃方法 90分 2 貯水槽の塗装方法 60分 3 貯水槽の消毒方法 60分 4 安全及び衛生 60分 5 建築物の環境衛生行政 60分 6 作業従事者の責任と責務 30分 7 給水設備と機器 60分	宮城 太郎 (貯水槽清掃作業監督者)	〇人	〇人
平成〇年〇月〇日 (予定)	1 貯水槽の清掃方法 120分 2 貯水槽の塗装方法 60分 3 貯水槽の消毒方法と感染症対策 60分 4 安全及び衛生 60分 5 建築物の環境衛生行政 60分 6 作業従事者の責任と責務 30分 7 給水設備と機器 60分 8 貯湯槽の清掃方法 60分	同上	〇人	〇人(予定)

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

## 作 業 実 施 方 法 等

平成〇〇年〇〇月〇〇日現在

	作 業 班	監 督 者 等	使 用 す る 機 械 器 具
作 業 班 編 成	第1班 (監督者1名、 従事者5名)	宮城 太郎	揚水ポンプ、 高圧洗浄機、 残水処理機、 換気ファン、 防水型照明器具、 色度計、 濁度計、 残留塩素測定器具
	第2班 (監督者1名、 従事者5名)	宮城 花子	揚水ポンプ、 高圧洗浄機、 残水処理機、 換気ファン、 防水型照明器具、 色度計、 濁度計、 残留塩素測定器具
作 業 手 順	<p>下記の事項を盛り込んで記入してください。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1) 作業工程(貯水槽清掃後における貯水槽の水等の検査方法に関する事項を含む。)</li> <li>2) 使用する塩素剤の名称及び使用方法</li> <li>3) 機械器具の洗浄、作業衣等の消毒の方法</li> <li>4) 機械器具等の点検の方法</li> <li>5) 保管庫の管理責任者の氏名</li> <li>6) 従事者の検便等の時期及び検査機関</li> <li>7) 作業報告作成の手順</li> </ol> <p>社内で作業手順がわかるようなマニュアル等を作成している場合には、「別紙のとおり」と記入し、添付でも可。</p> <p>記入例は次ページ</p>		

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

## 作 業 実 施 方 法 等

平成〇〇年〇〇月〇〇日現在

作 業 手 順	1 発注者と清掃作業内容等について十分に打ち合わせを行い、必要に応じて建築物の現地調査を実施する。		
	2 清掃作業等の方法について、作業計画及び作業手順書を策定する。清掃実施日について事前に十分な周知を実施する。		
	3 高置水槽、圧力水槽等の清掃を行う場合は、受水槽の清掃を行った後にする。		
	4 貯水槽(貯湯槽を含む。以下同じ。)内の沈でん物質及び浮遊物質並びに壁面等に付着した物質を洗浄等により除去し、洗浄を行った場合は、用いた水を完全に排除するとともに、貯水槽周辺の清掃を行う。		
	5 貯水槽の清掃終了後、塩素剤を用いて2回以上貯水槽内の消毒を行い、消毒終了後は、消毒に用いた塩素剤を完全に排除するとともに、貯水槽内に立ち入らないこととする。 消毒の方法は有効塩素濃度50～100ppmの次亜塩素酸ナトリウム溶液を高圧洗浄機又で噴霧することによる。 また、清掃に使用する作業衣や機器類は消毒済みの物とする。		
	6 貯水槽の水張り終了後、給水栓及び貯水槽内における水について、次の表の上欄に掲げる事項について検査を行い、当該各号の下欄に掲げる基準を満たしていることを確認すること。基準を満たしていない場合は、その原因を調査し、必要な措置を講ずる		
	1	残留塩素含有率	遊離残留塩素の場合は0.2ppm以上。結合残留塩素の場合は1.5ppm以上。
	2	色度	5度以下であること。
	3	濁度	2度以下であること。
	4	臭気	異常でないこと。
5	味	異常でないこと。	
7 貯水槽の清掃作業に用いる機械器具その他の設備については、定期的に点検し、必要に応じ、整備又は修理を行う。機器類の保管は専用の施設可能な保管庫で行う。 管理責任者：宮城太郎			
8 作業実施者は6ヶ月ごとに1回検便を実施する。 検査機関：宮城県検便センター			
9 作業の状況について報告書を2部作成し、1部を発注者へ渡し1部を自社で保存する。			

(備考) 用紙の大きさは、日本工業規格A4とする。

## 作 業 実 施 方 法 等

平成〇〇年〇〇月〇〇日現在

### 業務を委託する際の手順及び委託した業務の実施状況の把握方法

原則的には自社で作業を実施するが、業務を委託する際は、あらかじめ委託を受ける者の氏名(法人にあつては名称)、委託する業務の範囲及び業務を委託する期間を建築物維持管理権限者に通知するとともに、受託者から業務の実施状況について報告を受けること等により、受託者の業務の方法が別紙4-1に掲げる要件を満たしていることを常時把握する。

業務委託しない場合には、「業務委託なし」と記入して下さい。

### 苦情及び緊急の連絡に対する体制

通報 → 監督者、責任者に連絡 → 対応 → 通報者、建築物維持管理権限者等に対応状況を報告

受理先 (時間内) 営業所  
(時間外) 警備会社

苦情や緊急連絡に対して迅速に対応できる体制がととのっているかを確認します。  
社内で体制がわかるようなマニュアル等を作成している場合には、「別紙のとおり」と記入し、添付でも可。